

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニットA)

事業所番号	2770901573		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	グループホーム円珠荘		
所在地	高槻市北柳川町2-6		
自己評価作成日	平成31年11月20日	評価結果市町村受理日	平成32年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、利用者様の心に寄り添い人格を尊重し、常に利用者様の立場に立ったサービスを提供いたします。地域との交流を大切にしながら家庭的な環境のもとで認知症状の緩和や悪化の防止を図り、自立した日常を営むことができるよう援助いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム円珠荘(ホーム)は、医療法人仁寿会を運営母体とし、4階建ての各階にそれぞれ、デイサービス、グループホーム円珠の丘、小規模多機能ホームを併設している。開設16年目の3階の当ホームは、内装のリニューアル中で、近々完成予定である。最寄り駅から商店街を抜けて徒歩10分のホーム周囲には、住宅のほか畑も一部で残っているなど落ち着いた環境で、ホーム周辺の散歩も可能である。ホームでは、若い管理者と新旧混在の職員とのチームワークが良く、利用者の住み慣れた地域において家庭的な雰囲気の中で、利用者の立場に立って介護を行っている。看護師が職員として配置されていることも、利用者と家族にとって心強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく過ごしていただくことを理念に管理者、職員、家族とも密に連携をとり実践している。	「利用者の人格尊重、利用者の立場に立ったサービス提供、住み慣れた地域、家庭的な環境、自立した日常を営める支援」といったキーワードを配したホーム独自の理念を作成し、ホーム内に掲示するなど職員への周知を図っている。今回の職員ヒアリングにおいて、職員に理念が浸透していることが確認出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催のイベントや運営推進会議など、地域の方々にご参加いただき、事業所は地域のイベント等に積極的に参加している。	ホーム周辺を散歩時の近隣住民との挨拶や、喫茶店、コンビニでの買物を通じて、地域との交流を図っている。利用者の介護度が高くなり、皆揃って運動会や盆踊りへの参加は現状では困難となったが、敬老会等の合同イベント時にボランティアによる大正琴の演奏を鑑賞したり、中学校の職場体験学習を受け入れたりすることで、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方、家族の方々に施設の事例に基づいて認知症にて話し合っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村担当者とは密に連絡を取っており、報告、連絡、相談、しながら運営している。	運営推進会議は、併設するグループホーム円珠の丘と小規模多機能ホームとの三者合同で年6回行っている。会議には、地区の福祉委員(民生委員)、地域包括支援センター職員のほか、家族、管理者、リーダー、看護師が出席している。会議では、ホームからの報告に続き、出席者から意見・助言や情報を得て、日常の運営等に反映している。	家族等の継続的な出席のほか、作成した議事録の公表が望まれる。公表は、利用者や家族等が閲覧できるようにホーム内に備え付けるほか、出席できなかった家族等には、他の報告資料等と共に送付することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取っており、報告、連絡、相談、しながら運営している。	市の窓口(福祉指導課、生活福祉支援課等)には、必要に応じて報告・相談や生活保護受給の申請代行を行っている。地域包括支援センターとは、運営推進会議等において報告や情報交換を行っている。地域のグループホーム連絡会においても情報の入手に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーティング等で身体拘束について理解を深め、施設全体で身体拘束のないケアを実施している。	毎月1回、研修やミーティングで何が拘束に当たるのか？などを確認している。現在身体拘束の事例はないが、利用者の介護度が高くなり、ちょっと腕を支えただけでもあざが出来たりすることもあり、家族には予め口頭で了解を取っている。不適切な声掛けがあった場合には、管理者や職員で互いに注意し合うようになっている。エレベーター等は安全性の理由から、利用者だけでは使えないようロックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティング等で高齢者虐待について理解を深め、施設内で虐待の疑義、徹底的に調査するようにする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は日常生活自立支援事業成年後見制度が必要と考えられる利用者がそれらを活用できるよう関係機関への橋渡しをする為に、地域で行っている会議などに参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間をかけて利用者や家族に丁寧に説明し、疑問や不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置、家族会議等で利用者、家族の意見を聞く、施設運営に反映させる。	管理者や職員が訪問時に家族等から苦情や要望を聞き取ったり、電話連絡の際に聞いたりしている。聞いた苦情、要望や対応等は、苦情処理簿や利用者の個人ファイルに記録のうえ職員で共有し、ホームの運営に反映させている。今回のアンケートにも家族等の意見が散見されたので、「円珠荘だより」等を有効に使い、ホームの考え等を家族等に伝えては如何かと考える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングで意見や提案を聞き、施設運営に反映させている。	毎月の職員会議において、管理者は職員からの意見や提案に耳を傾け、運営に活かすよう努めている。また、管理者は現場においても日常的に職員と接しているため、意見等を聞きやすい環境が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、リーダーが定期的な会議にて個人々の職員、職員環境について報告し、職場環境の改善、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の定期研修にて、個々のスキルアップを図ると共に、外部研修についても奨励し、積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、交流会については、積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時にゆっくり話をし、要望や不安を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご本人様、ご家族様からもゆっくり話をし、家族の要望、不安なこと、困っていることを聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を聞き、現在必要とするサービス導入し。今後必要と思われるサービスも支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では、職員一同、利用者と家族のような関係で介護するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の実情を正確に報告するとともに家族が不安や本人との関係が劣悪にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・知人・親戚関係方の面会に制限なく来て頂けるように努めています。居室でゆっくりと過ごして頂きます。	家族のほかに親せきや知人が訪ねてくることがあり、居室でゆっくり懇談してもらうように支援している。家族等と一緒に、利用者が外食や買物に行くこともある。また、職員が支援して、地域の喫茶店やコンビニ店での買物に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が参加していただいけ、個人が孤立しないような、環境づくりを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族とも連絡を取り合い、退所後の支援や相談も受けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望できる限りサービスや支援に取り入れるように、努めている。	家族、地域のケアマネジャーや病院からの入所問い合わせに対しては、2泊3日または1週間程度の体験入居をしてもらい、利用者の意向を確認している。入居が決まれば、計画作成担当者が中心となり、本人、家族や関係者(ケアマネジャーや病院)から生活歴や介護、医療情報を入手のうえアセスメントを行い、利用者の立場に立った介護計画書を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の体調や精神状態等に留意し、申し送りを通じて職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のその日の健康状態等、身体の状態等を勘案し、その日の過ごし方を本人と相談して決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家話の話しを聞き、現在必要とするサービス導入し。健康面の状況を把握し、今後必要と思われるサービスも支援している。	計画作成担当者が、利用者の日々の記録や関係者からの情報を基に、本人、家族、職員や関係者と相談しながら定期的にモニタリングを行い、必要に応じて随時または定期的に計画を見直している。今回の家族アンケートには、利用者に変化があれば迅速に、また定期的に状況報告が欲しいとの意見があった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤と夜勤の申し送りは朝と夕方、各10～15分間、記録に基づいてできるだけ詳しく行い情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の過ごし方は、特に決まったプログラムに沿ったものではなく、その日の状態を見て決めて行く。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの喫茶店、飲食店、医療機関などに行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの訪問医を中心に必要に応じて馴染みの医師に医療を受けられる。本人・家族等の希望に応じている。	かかりつけ医の選択は、利用者、家族の希望を基本としているが、殆どの利用者は医療法人仁寿会の医療機関の内科、整形外科、歯科医の診療を受診している。内科は月に2回、歯科医の訪問は週1回で、健康維持管理と嚥下能力の低下を防止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況や気付きは、常に看護師に報告し、指示を受けるようにしている。また、看護師はかかりつけ医と密に連絡を取るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病院、家族との連絡を密にし、ADLの低下がなく、早期に退院できるよう動きかける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方を話し合い、必要に応じて医療へ経過報告している。状態の変化に応じて、家族と共にケアの方針を再確認するようにしている。	重度化した場合の対応について、入所の段階でホームの方針を利用者、家族に説明し、利用者が重篤に至った際の医療処置について、家族等の意向を文書で確認している。家族等の意向に沿って、終末期までホームでケアを行うが、最後は病院へ搬送して、医師の立会いの下で看取るという対応をしている、	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応にあたっては、マニュアルに沿って対応するよう職員全対に徹底するようにしているが、定期的な訓練は実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤、夜勤を想定した非難訓練を利用者・職員共に参加し行っている。また、スプリンクラーが設置しており自動火災通報装置の導入もしている。	防火面の火災感知機器、通報設備、消火設備及び避難路の確保は整備されている。建物(4階建て)全体として併設事業所と合同で、消防署の指導協力の下に、年2回訓練を実施している。前年の北部地震、21号台風の経験から、水や照明ランプ等の備蓄量を増加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分がされて嫌な事は相手にしない」という指導を常々している。また、格式ばった物言いを好まない利用者にはささくに話しかける等の配慮をしている。	介護現場の責任者である管理者の職員指導方針は、「自分にされて嫌なことは利用者にならない」として、ホーム理念と共に介護の心得としている。利用者への適切な声掛け、トイレ誘導時の羞恥心への配慮等や個人情報の保護も、職員に徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行動を起こす時には、まず利用者に話しかけて承諾を得る。利用者本人の意思決定できる雰囲気をつくるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は、スタッフ側の都合ではなく利用者のペースを考え利用者本位を優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、季節に合った洋服選びを支援を行い、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はできる限りスタッフも一緒にテーブルを囲んで摂るようにしている。また、配食業者を変更し、食事の時間をより良いものに支援している。	夕食は、1階の厨房で調理された食事が提供され、昼食は、配食業者の食事である。味や見た目も考慮した配食業者の選定を行っている。昼食では、介助しながら職員も一緒に自分の食事をして、家庭的な雰囲気を作っている。調査時はユニット改装中であり、A・B両ユニットの利用者が一緒に食事して、にぎやかな雰囲気となっていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎回チェックして、記録して申し送る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促しを行っている。自身で出来ない方はスタッフが行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の一人、ひとりのパターンをスタッフで情報交換し、できる限りトイレでの排泄を促す。また、声掛けに配慮し食前・食後、又は便通の薬を服用した場合のご本人の様子に常に気をつける。	利用者個々の排泄の特徴やリズムをデータで把握して、タイミングを見計らった誘導が行われている。排泄と食事や水分補給の関係も考慮に入れたコントロールを行っている。排泄は、利用者が気分的にも体調的にも不安なく過ごせるように支援する重要な課題であると、職員は認識している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便を確認する。便秘の方には自然排便を促すための、飲物・食品・体操を工夫する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は個浴だが、事業所内にある大浴場で温泉気分を味わっていただく機会もつづけている。	現在大浴場は利用されてなく、ユニット内の浴室で週に2回の入浴支援を行っている。利用者の体調不良や拒否がある場合は、日程や時間を替えたり、別の職員が声掛けするなどして、ゆっくりと湯につかって入浴を楽しんでもらうように心掛けている。職員2名の介助が必要な利用者もあり、職員のシフトを工夫して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝介助が必要な方へは随時支援し、中々眠れない方には飲物等を提供して心が落ち着くまで寄り添うなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬の効能を把握し、確実に服用できるようチェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・たたみ、おやつ作り、食器洗い等、家事のできることは、スタッフと一緒にして頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員同行で、散歩や買い物に行ってます。	1階玄関を出ると、近所の農家が耕作している畑があり、利用者は季節を感じながら散歩している。職員と一緒に買い物や外食も、外気に触れる機会となっている。家族と一緒に外出する利用者もある。歩行能力の低下で、車椅子で移動する利用者が増えているが、時間があれば外気に触れる機会を多くするように、職員は努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、金銭の管理はスタッフがしているが利用者自ら支払いしてもらうよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人から電話や手紙も快く取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間には、できるだけ季節の特徴のあるものを装飾しているが、温度は体感温度に個人差があるため、温度調節が難しい。	調査時点では、3階のA・Bユニットの居間、厨房も改装工事中であり、就寝時以外の日中は、利用者全員が一方のユニットの居間で過ごしている状態であった。ピンクと黄色に内装を色分けする改装が行われている。1ユニットが8室から9室に増室された際は、採光面の工夫もしてあった。間もなく改装が終われば、新築のような共用空間になると、家族も期待している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、ゆっくり話せるスペースを設けたり、また、利用者同士でのトラブルやいざこざがあった場合には、席を変えたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の気に入った馴染みの物を置いてもらうなど、本人、家族の意見を十分に聞き部屋づくりに務めている。	A・Bユニットの居室の壁クロスを改装中である為に、通常の部屋の雰囲気は確認出来ないが、使い慣れた家具やTV、衣類整理用のケースが持ち込まれ、整理ダンスには着衣の間違いがないように、冬用肌着、靴下等のネーム表示が、家族と協力して行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーになっており、各室に案内板を掲示しておりできる限り、自立した生活ができる環境づくりを心がけている。		